



Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所

〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。 <http://www.amsl.or.jp>

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@oki-zamami.jp



●仲良しの2匹？

ーテングカワハギー

今年の1月、あか・げるまダイビング協会の人たちといっしょに、またマジヤノハマにサンゴを移植しました。2009年夏に産まれた卵から1年半ほど阿嘉港で育てたウスエダミドリイシです。移植の後、心配でたびたび見に行っていますが、けっこう多くのサンゴがこわされてキズだらけになってしまっています。以前お話ししたように（アムスルだより No.96）、モンガラカワハギの仲間などの魚にかじられたのだらうと思います。とはいえ、最近見てきた様子では、かじりの一番のやまは過ぎたようで、新しいかじり跡はなく、キズが治っている最中のようなので、多くはまた元気に育ち始めるのではないかと思います。しかし、今後のことを考えると、なんとか早いうちにかじる犯人を突き止めなければと思います。ところで、サンゴを食べる魚は、モンガラカワハギ類のようにかじるタイプだけではありません。骨をかじること

なく、サンゴのやわらかい肉の部分、とくにポリプの部分を食べる魚も慶良間の海にはたくさんいます。チョウチョウオの仲間やテングカワハギなどです。今回はそのテングカワハギの話をしましょう。

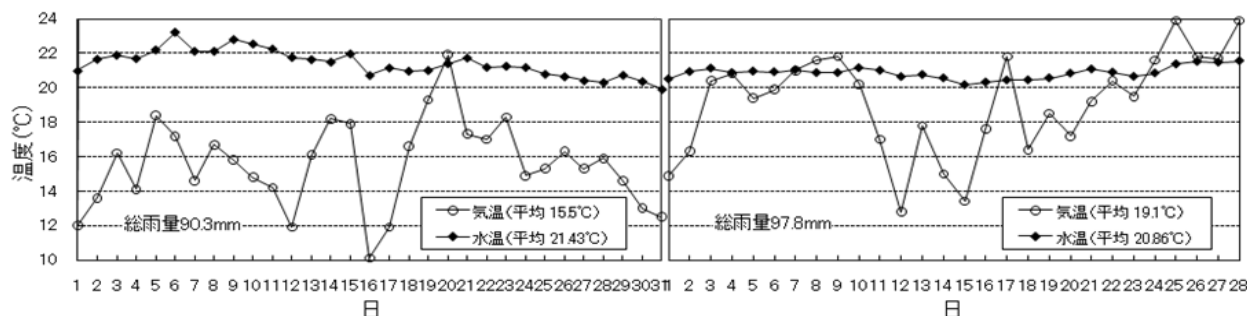
テングカワハギはその名のとおり口がテングの鼻のように長く伸びたカワハギの仲間です。その長い口で小さなサンゴのポリプをついばんで食べます。実は以前研究所にいた小北智之さんが沖縄本島で研究している頃、このテングカワハギのことを詳しく調べていて、その時の話をいろいろ聞いたことがあります。それによると、この魚はどうやらサンゴのポリプだけ、特にミドリイシ類のポリプを好んでエサにしているようです。それで、テングカワハギの多い場所には、たいていミドリイシ類もたくさん生息しており、逆に、例の1998年の大規模な白化現象によってミドリイシ類が全滅してしまった時には、テングカワハギも姿を消してしまったとのことでした。つまり、テングカワハギは、それだけミドリイシ類に頼って生きているということでしょう。

この魚がサンゴを頼りにしているのは、エサとしてだけではありません。以前にも紹介しましたが（No.81）、テングカワハギは、夜もよくサンゴの中で眠っています。サンゴの枝に腹を押しつけて、背びれのとげを別の枝につっばって体を固定して寝ています（写真1）。サンゴの枝

定点観測

2011年1月

2011年2月



に守られた安全な場所から、寝ている間に流れ出てしまわないようにしているのでしょうか。



マジヤノハマで見ていると、テングカワハギはほとんどの場合 2 匹で泳いでいます。これはオスとメスで、この魚は一年中同じペアで暮らし、繁殖もおこないます。このようなオスとメス 1 匹ずつで繁殖するタイプを“一夫一妻”と呼びますが、魚類ではそんなに多くはありません。ベラの仲間などほかの多くの魚は 1 匹のオスと複数のメスとの組み合わせ（“一夫多妻”）で繁殖するのです。では、どうして、テングカワハギは、一夫一妻なのでしょう。そこには、なかなか複雑な理由があるようなのですが、誤解をおそれず大まかに言うと、サンゴのポリプという限られたエサを自分のものとして確保するには、オスとメスが共同で 1 つのなわばりを守る方が効率が良いのです。いろんなところにたくさんあるエサならば、それを守る必要はないのですが、テングカワハギの場合はエサがエサだけにそうはいかないのです。そして、特にメスが自分の子孫をたくさん残すためには、ほかのメスはじゃまなので、なるだけ追い払おうとするために複数のメスにはなりにくいとも考えられます。けれども、このへんの事情はどうやらオスとメスとは違って、オスでは、一夫多妻の方がたくさんの子孫を

残せる場合もあるので、できればそうしたいのですが（実際に、1 匹のオスが 2 匹のメスと繁殖することがあるようです）、メスが妨害するためになかなかそうはならない、ということのようです。ツイツイとサンゴの間を仲良さそうに泳いでいるテングカワハギのペアですが、どうやら 2 匹の思惑は、それぞれ違うみたいです。

オスとメスの事情はどうあれ、テングカワハギのたくさん泳ぐ海が、ミドリイシの豊かな場所なのは間違いないでしょう。以前のように慶良間の多くの場所でそのような光景が見られるようになれば良いのですが。

● 阿嘉島の海より

寒い日の多かった今年の冬ですが、3 月に入って天候もよくなり、気温も上がってきました。そんな中、阿嘉小中学校では卒業式が執り行われました。今年は、2 名の小学生と 3 名の中学生がそれぞれの母校を卒業していきました。小学生 2 名はそのまま阿嘉中学校に進学しますが、新たに高校生となる 3 名は 4 月からは島を離れて沖縄本島で生活しながら高校へ通うこととなります。そのため彼らにとっては中学校の卒業は同時に生まれ育った島からの卒業でもあります。阿嘉島の思い出を胸に、それぞれの夢に向かって頑張ってください。

